

ますます厳しくなる「親の負担」と「子どもの進路選択」

わが家の「進学マネー」プランニング

高校1年からの
準備が
決め手！



構成取材文／インタープレス 文／笠原路子
イラスト／佐原周平

厳しい経済状況が続き、収入が減少する家庭も増えている今、進学費用は頭の痛い問題です。しかし、現状を把握して早めに準備を始めれば、親子で納得できる進学プランを立てることもできます。そのための情報と考え方を紹介します。

アドバイスは
教育資金に詳しい
お金の専門家



ファイナンシャル・プランナー（FP）
島中雅子さん

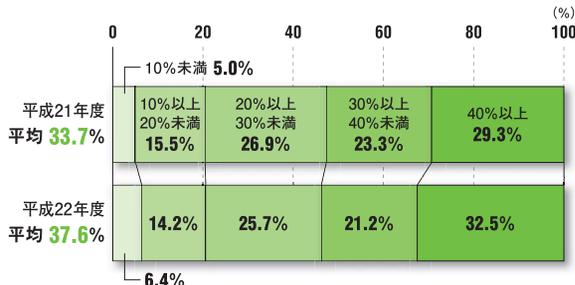
各家庭のライフプランに応じた住宅・教育・老後資金などの設計&アドバイスを行うほか、雑誌・新聞・マネーサイトへの執筆、セミナー講師でも活躍中。「子どもにけるお金を考える会」を主宰するほか、近年は「高齢期のお金を考える会」で、引きこもりのお子さんを抱える家庭への支援や家計相談にも力を注ぐ。

マネー事情01

教育費の負担が年収の30%以上を占める家庭が増え、家計の重荷に

年収に対する在学費用の割合は、平成21年度が平均33.7%だったのに対し、平成22年度は平均37.6%と1年で3.9%も増加。年収の40%以上という家庭も3.2%増加し、子どもの教育費が家計を圧迫していることがわかります。親の収入が減少傾向にある中、教育費自体は変わらないため、負担がより重くなっているのです。年収の半分近くを教育費が占めると、生活に余裕はなくなり貯蓄も難しくなります。将来の生活設計や親自身の老後にも影響を及ぼします。

■ 年収に対する在学費用の割合



*日本政策金融公庫「教育費負担の実態調査結果（国の教育ローン利用勤務者世帯）」より在学費用とは、小学校以上の子ども全員の合計

平成22年度は、在学費用が年収の40%以上を占める家庭が32.5%と増えているのが目立つ。調査世帯の平均年収は、21年度592.6万円、22年度572.5万円

マネー事情02

奨学金の利用者は増える一方で
卒業後の返済が滞る人も増加

日本学生支援機構の奨学金を利用している学生は、毎年3万～7万人ずつ増加しており、平成21年度では118万人が利用しています。背景には親の経済状況の悪化と教育費の増加があることは明らか。その一方で、卒業後に返済を滞納している人が増えていることも見逃せません。就職が厳しい中、定職に就けず、返済が困難になっている人も多いのです。同機構は平成23年1月から、一定の要件を満たせば一定期間、1回の返済額を半分にする「減額返還制度」も導入しましたが、奨学金を目一杯借りてしまうと、子どもの将来に重い荷物を背負わせることとなります。

進学費用は親の時代と
大きく変わっている

進学費用の相談も数多く受けているファイナンシャル・プランナーの島中雅子さんは、最近の傾向として「高校までの教育にお金をかけすぎて、肝心の大学費用の準備が不足ぎみの家庭が増えている」と話します。

「高校まで乗り切れば、その先は奨学金でなんとかなるだろう」と考えているご家庭が多いよう。しかし、大学を出ても就職が厳しくなっている今、奨学金に頼り過ぎると、子どもだけでなく、親にもその負担がのしかかってくる「ことが…」と注意を促します。

マネー事情04

受験システムの多様化により
入学前の受験費用にも注意が必要

最近では大学の受験システムが多様化し、一般入試や学校推薦のほか、AO入試、センター利用入試、全学部統一入試など、受験のチャンスが広がっています。そのため第一志望の大学・学部は何回も受験する人がいて、複数校を受ければ、受験料だけで30万~40万円かかる場合も少なくありません。受験には出願書類の郵送代や当日の交通費のほか、宿泊代がかかる場合もあり、用意していた資金だけでは足りないことも。合格後に支払う納付金に困ることがないように注意が必要。

■私立大学の入試にかかる費用の例

センター試験利用入試(3校)

・センター試験の検定料 3教科 1万8000円
(参考:2教科1万2000円)

・私立大学のセンター受験料
1学部/1万~2万5000円程度 ×3 = 3万~7万5000円

+

私立大学・一般入試(5校)

・受験料
1学部/平均3万5000円 ×5 = 17万5000円

合計 約22万3000円~26万8000円

私立大学をセンター試験で受験すると、センター試験の検定料のほか各大学の受験料が必要。一般入試の受験料(1学部平均3万5000円)は、同じ大学で複数出願すると割引があることも。

マネー事情05

親からの仕送り額は年々減少し
学生たちの生活もラクではない

東京私大教連の「私立大学新入生の家計負担調査2009年度」では、下宿生の6月以降の仕送り額は9万3200円で、過去最低になっています。家賃(平均5万9500円)を除くと、生活費は3万3700円。これでは食費や活動費はまかなえないため、多くの学生はアルバイトで生活費を補っているようです。学業とアルバイトの両立を心配する親も多いのですが、ほかの兄弟の学費や親の生活を考えると、十分な仕送りは難しく、親子の悩みのタネとなっています。

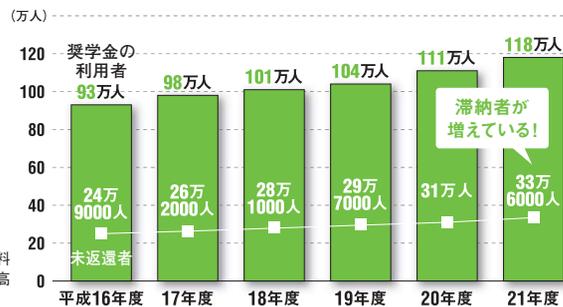
進学先によっては下宿費用や仕送りを考えておかなければなりません。「高校卒業後の進学費用は、教育費があまりかからない小さいころから貯めておくのが理想です。しかし、それが思うようにできなかった家庭でも、早めに関心を持って高校在学中に少しでも貯蓄を増やせば、最低限の準備はできます」(畠中さん)

そのプランの立て方と、具体的な準備の仕方を考えていきましょう。

進学にかかる費用は、入学金や学費だけではなく、「高校時代に通った予備校の授業料や、特別講習の費用も大変だった」という人もいれば、「推薦で進む予定が一般受験に変わり、予想外の受験料で貯蓄を取り崩した」という家庭も。

進学先によっては下宿費用や仕送りを考えておかなければなりません。

■奨学金の利用者数と未返還者数の推移



*日本学生支援機構の資料より。平成17年度以降は高校生の新規貸与分は除く

奨学金の利用者は、平成20年度から21年度の1年間だけで7万人も増加している。滞納者も年々増加しており、平成21年度には33万6000人に達している。

進学費用については、子どもの人数や年齢、親の定年まで考えてプランを立て、計画的に出していかなければ、家計はどこかで赤字に転落し、下の子の学費や親自身の老後にまで大きな影響が出てくると言えます。

しかも、最近の進学マネー事情は、親の学生時代とはずいぶん違っています。「親も今現在の進学事情を把握して、早い時期から計画的に準備していくことが大切です」(畠中さん)

学費のほかにかかる費用も考えて、最低限の準備は必要

マネー事情03

国公立大学の費用も徐々に上がり
私立文系との出費の差は縮まる

「国公立は学費が安い」と考えている親も多いようですが、国公立大学の授業料も上がってきており、現在は授業料が年約54万円で、入学金も含めた初年度費用は82万円に。1985年には授業料25.2万円、初年度費用37.2万円だったので、親世代の2倍以上になり、私立大学との差も縮まっています。国公立でも通学代などの生活費用も考えると私立大生と同程度の出費に。

どうなっている?
ナニが変わった?
今どきの
進学マネー
最新事情

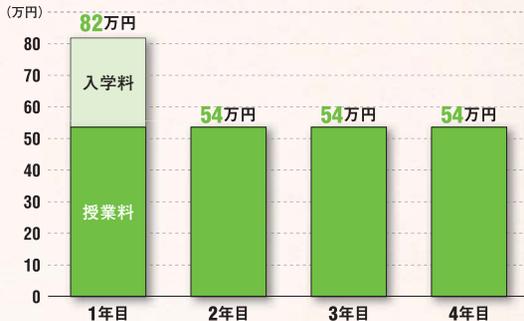
これだけは削れない！ 学校への納付金

進学後にかかる費用を 「チェック」しよう

コース別 学校納付金の 平均額

国公立コース (昼間部)

総額 **244** 万円



学部による違いはなく 全国ほとんど同額

国立大学昼間部は入学金28万2000円、授業料年53万5800円で、ここ数年変わっていません。2004年の独立行政法人化で各大学独自に学費が決められるようになりましたが、ほとんどの大学が足並みをそろえています。ただ、多少の差があったり、施設費が必要な大学もあるので事前に確認を。公立大学もほぼ同じですが、首都大学東京のように地元住民だと入学金が安くなる大学もあります。

“意外”にかかるこんな費用

滑り止めの私立の 入学金を先払い

国立大学の合格発表は3月中旬。その前に滑り止めで受けた私立大学の入学金を払わなければならなかったのが痛かったです。浪人させたくないだったので私立大学も何校か受けたため、受験料もかなりの負担でした。(文系・女子の親)

地方の大学受験で 宿泊費や仕送りが重い

首都圏に住んでいますが、多くの国公立大学は学力が届かず、地方の国立大学を受験。その交通費やホテル代が思った以上にかかりました。入学後は下宿することになり、仕送りが大変で生活を切り詰めています。(理系・男子の親)

*私立大学は平成21年度入学者の初年度学生納付金平均額の調査(文部科学省)、専修学校は平成22年度学生・生徒納付金調査結果(東京都専修学校各種学校協会調査統計部)、国立大学は平成23年度の予定額から作成



マネープランを立てるときに真っ先にチェックしておきたいのが、進学先に納めるお金です。大学は私立か国公立かだけでなく、学部によっても授業料はかなり異なりますし、設備費や実験実習費も違います。また、専門学校も1年間にかかる学費は大学並みか、医療系などではそれ以上になる場合もあるので、事前に調べておく必要があります。とはいえ、どの学部に進みたいかは、子どもの希望が第一になります。

希望の進路と学費を
子どもと一緒に確認しよう

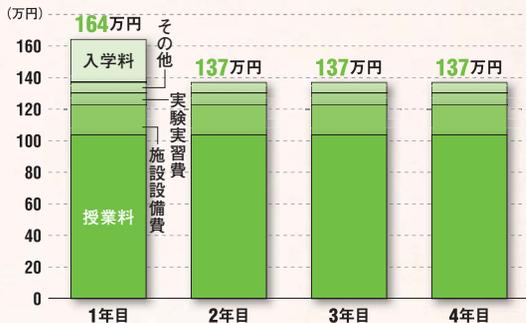
「高校1年生では、はっきりと進学先を決めている子どもは少数。でも、親は早めに一度は進学先の希望を確かめ、上のグラフを見せながら、かかる費用を一緒に確認することをお勧めします。進路に対する意識を高め、真剣に考えるきっかけにもなるでしょう」(畠中さん)

大学の中で、学費が最も安いのは、やはり国立大学です。独立行政法人になつてから、大学によって多少違いは出てきましたが、今のところ授業料は年54万円ほどで足並みをそろえています。理系や文系、学部による違いもなく、実験実習費や施設設備費もあまりかからないところが多いようです。

ただ、国立大学の学生の保護者に聞くと、入学後より入学前に費用がかかったという声が聞かれます。「センター試験が7教科あるので、教科別に専門の塾に行ったり、特別講習や模擬テストを何度も受けたため、受験前までの費用がかさんだ」という人や、「合格発表が3月のため、滑り止めの私立大学の入学金は絶対に必要」という声も多数。また、「合格の可能性のある大学が近くになかったため、遠方の大学を受けざるを得ず、下宿することになった」という声も。国立大学だけに絞ると大学の選択肢は少なくなり、下宿する人も多いようです。国立をねらうなら、こうした可能性も考えておく必要があるでしょう。

私立理系コース

総額 **575** 万円



総額は文系より160万円も高め 学部による違いも大きい

私立理系(医歯系除く)の平均額は、入学金27万2203円、授業料年103万7190円で文系より高く、施設設備費(年19万416円)、実験実習費(年7万4504円)、その他(年6万7317円)も高め。ただし、理系の平均額には薬学部も含まれ、理・工学部だと授業料は年約98万円です。薬学部は6年制が多く、授業料は年約146万円、初年度納付金も約224万円と、別格に高いので要注意。

“意外”にかかるこんな費用

理系に変更したため 資金不足に

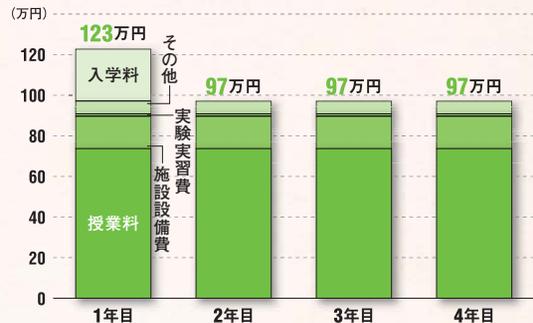
高3になって文系から理系に変えたいと言出し、塾の科目を増やしたため負担が増加。400万円ほど用意していましたが、理系は授業料が高く、パソコンやソフトの費用もかかるため、奨学金を借りることに。(工学部・男子の親)

アルバイトができず 小遣いも親の負担に

学費は出すけれど、小遣いは子どもがアルバイトで出すという約束でした。でも授業についていくのが大変で、実習も多いため、アルバイトする余裕はないようです。結局、小遣いも家計を切り詰めて渡しています。(農学部・男子の親)

私立文系コース

総額 **414** 万円



私立の中では低めだが 学費以外の費用にも注意

私立文系の学部は、文学・教育・法律・商学・経済・社会・福祉など。全体の平均額は入学金25万6378円、授業料が年73万6938円です。このほかに施設設備費(年15万8662円)、実験実習費(年1万2143円)、その他(寄付金・諸会費など、年6万2938円)がかかります。学部による平均額の違いはあまりありませんが、大学によっては寄付金などが高い場合があります。

“意外”にかかるこんな費用

受験費用と学費以外に ゼミの旅行代なども

7校受験したので、受験料だけで25万円くらい。4年間の学費は440万円の見込みですが、入学してすぐのオリエンテーション旅行やゼミの旅行も親が負担せざるを得ず、準備していた貯金は底をつきそうです。(文学部・女子の親)

就職のための専門学校 の費用は、けっこう高い

子どもは公務員を目指していますが、3年になって「独学では受からない。公務員試験の対策を教える学校に行かせて」と言われ、仕方なく30万円出すことに。就職が厳しいのは聞いていましたが、痛い出費です。(法学部・男子の親)

私立大学は授業料以外の
出費も多い点に注意

私立大学は、入学金や授業料が国立より高いだけでなく、実験実習費や施設設備費などもかかります。中には寄付金が必要な大学もあるので、各大学の学校案内(HPでも閲覧可能)などで調べてみましょう。

私立大学の中でも文系の学部などは、比較的授業料が低い学部といえます。しかし、これらの学部生は、最近の就職の厳しさから、大学以外に専門学校にも通うケースが増えています。

公務員試験や教員採用試験、司法試験、簿記や会計の資格試験の学校に通うわけですが、費用は数万円から数十万円とけつて安くはありません。

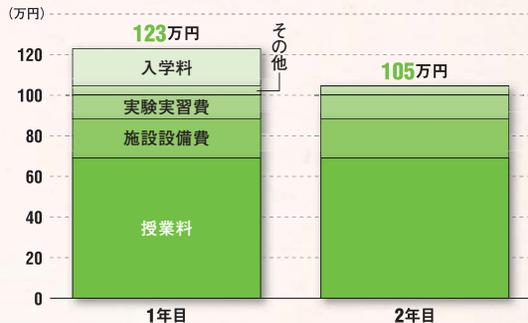
「こうしたダブルスクールの費用を、親がどこまで出すべきかと悩むのも最近の傾向です」(島中さん)

一方、私立理系学部は、文系と比べると授業料が高く、実験実習費・施設設備費も高め。薬学部や獣医学部はさらに高くなります。そのほか、「授業に必要なパソコンやソフトの購入が予想外に高かった」という声や、「勉強や実験が忙しく、なかなかアルバイトができない」という話もよく聞きます。

学部を選ぶ際にも、将来どんな職業に就きたいのか、それに合わせた選択でどれくらい費用がかかるのかを、親子で確認しておくことが必要でしょう。

専修学校コース（昼間部）

総額 **228** 万円



年間費用は私大の文系並みだが 特に医療系は高めの傾向

専門学校の平均額は、入学金18万3000円、授業料年69万1000円、施設設備費年19万3000円、実験実習費年11万7000円、その他年4万5000円となっています。ただし、専門学校には文系・理系・芸術・医療などさまざまな学科があり、学科や専攻によってかなり違ってきます。特に看護を除く医療系が高く、理学療法や柔道整復の学科は初年度納付金が平均で170万円を超えています。

“意外”にかかるこんな費用

医療系は3年間なので 費用は大学並み

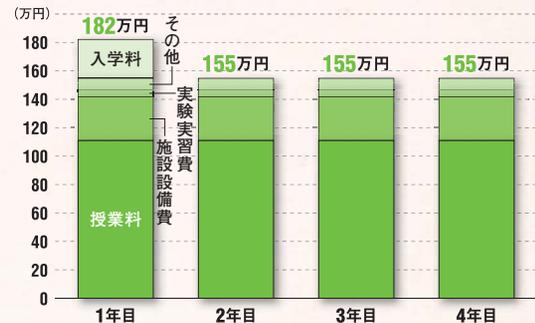
就職に強い資格をとりたいと理学療法士の学校に行きましたが、初年度納付金は180万円、3年間の合計は500万円近くに。それ以外に実習や泊まりがけの研修費もかかります。教育ローンを借りて何とか出しています。(男子の親)

看護の実習が忙しく 奨学金を借りることに

看護学校は初年度納付金が約80万円と、思っていたより安く助かりました。ただ、勉強が大変で実習も多いため、アルバイトはまったくできない状態。交通費や活動費の分は娘が奨学金を借りてまかっています。(女子の親)

私立芸術系コース

総額 **647** 万円



授業料や施設設備費が高く 個人的な教材代も重い負担に

美術や音楽など芸術系の学部の平均額は、入学金27万3259円、授業料年110万9625円と私立理系よりさらに高く、施設設備費(年30万7992円)は私立文系の約2倍。ほかに実験実習費(年4万9018円)、その他(8万1446円)もかかります。実技授業が多いために高いようですが、このほかに楽器代や画材代など個人的な出費が予想以上にかかることも覚悟しておきたいところ。

“意外”にかかるこんな費用

個人レッスンの費用が かなりの額に

バイオリンを勉強していますが、個人レッスンも受けなくてはならず、1レッスンで1万円かかります。楽器のメンテナンス代や伴奏者への謝礼も必要で、学費以外の費用が年間100万円近くにもなっています。(音大・女子の親)

パソコンやソフトの 費用が予定外でした

デザインを勉強していますが、パソコンと特別なソフトが必要で、入学早々40万円以上もかかってしまいました。美大に入るための予備校代もかなり大きかったです。それなのにデザイナーは就職難らしく、将来が不安。(美大・女子の親)

大学・専門学校とも
芸術系や医療系は高額

音楽や美術などの芸術系の学部も、かなりの学費がかかることを覚悟しなければなりません。授業料や施設設備費が理系より高いだけでなく、個別に必要な楽器や楽譜、画材などの購入費も大きな負担になるようです。

家政学部や体育学部の4年間の学費の平均も、文系学部より20万〜30万円ほど高くなっています。

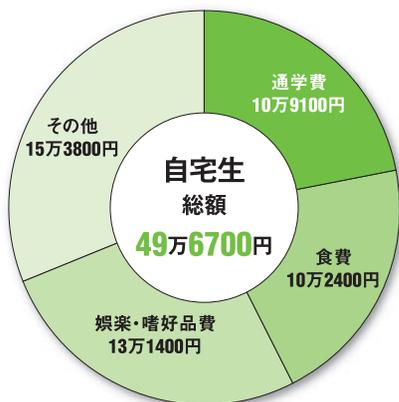
また、専門学校は修学期間が2年と短いところが多いものの、年間費用は大学と同程度。実験や実習のある学科は特に高く、理学療法や柔道整復では、初年度納付金が180万円以上の学校もあります。医療系は修学期間も3年以上になるので、学校・学部を選ぶときにはよく比較検討してください。

全体として、ここ数年は学費の値上げがゆるやかですが、親の経済状況の悪化も考慮して、今年度は「特待生」や学費の減免制度などを充実させた学校が増えた点は朗報です。

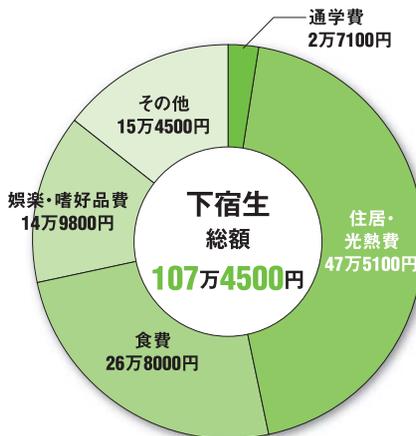
特待生は入学試験などの成績に応じて、授業料が全額または一部給付になる制度。親の所得や子どもとの成績によって、授業料の一部が免除され安くなる場合もあります。こうした制度も子どもと一緒に調べ、1年生のときからしっかり勉強に励むよう話し合ってみるのもいいでしょう。

大学生の生活は、どれくらいかかる？ (年間平均額)

*日本学生支援機構「平成20年度学生生活調査(大学屋間部)」より、授業料、その他の学校納付金、修学費、課外活動費を除いた費用



自宅生は、通学費と昼食代が大きな割合を占める。大学生になるとレジャー費や洋服代などの額も多くなるのが一般的。



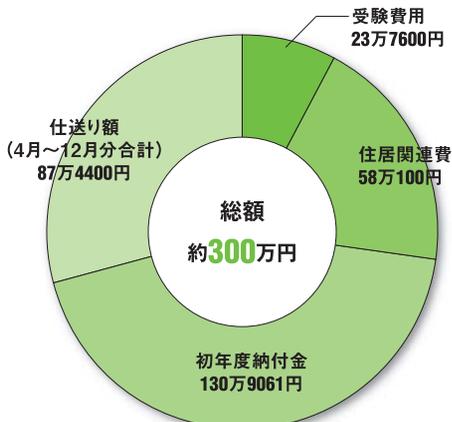
下宿生の生活費は年間100万円を超える。4割以上を住居・光熱費が占めるが、朝昼夜の食事代もかなりの額になる。

学費以外の生活費用も こんなにかかる

どこまで親が出すかは悩みどころ...

自宅外通学者(私大)の入学の年にかかる費用

*東京私大教連「私立大学新入生の家計負担調査」(2009年度)、初年度納付金は文部科学省の調査より

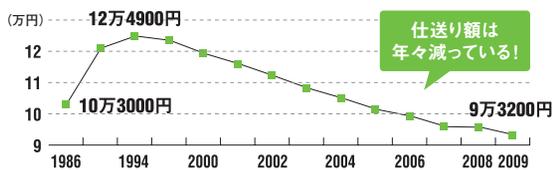


私大で下宿をさせると初年度の費用は平均300万円。住居関連費は敷金・礼金・1カ月分の家賃、生活用品を含む。



内訳
家賃5万9500円
敷金・礼金20万5400円
生活用品費31万5200円

私大生の仕送り額の推移 (6月以降の月平均)



*東京私大教連「私立大学新入生の家計負担調査」(2009年度)より (年度)

私大生の仕送り額は、1994年の12万4900円をピークに徐々に下がりが続き、2009年には過去最低の月9万3200円に。ピーク時から約3万円もダウン。

大学生のアルバイト収入 (授業期間中の1カ月平均)

*早稲田大学学生部「学生生活調査報告書2009」より



夏休みなどを除く授業期間中のアルバイト収入は、1カ月当たり平均2万~6万円が4割以上。1日4~6時間働き、週平均2~3日行っている人が多い。

私立大学で下宿させる場合、入学の年には住まいの準備にもお金がかかり、学費を含めて300万円前後の費用となるため、親も周到な準備が必要です。一方、下宿生にとって頼みの綱である家からの仕送り額は、年々減少する傾向にある点に注意。

気になる学生のアルバイト収入については、1カ月当たり平均2万~6万円未満の人が多数を占めています。ただし、新生活に慣れない1年生のうちは、安定した収入を得るのは難しいため、親の負担がやや多くなりそうです。

生活費の一部は子どもにも負担させることを考えて

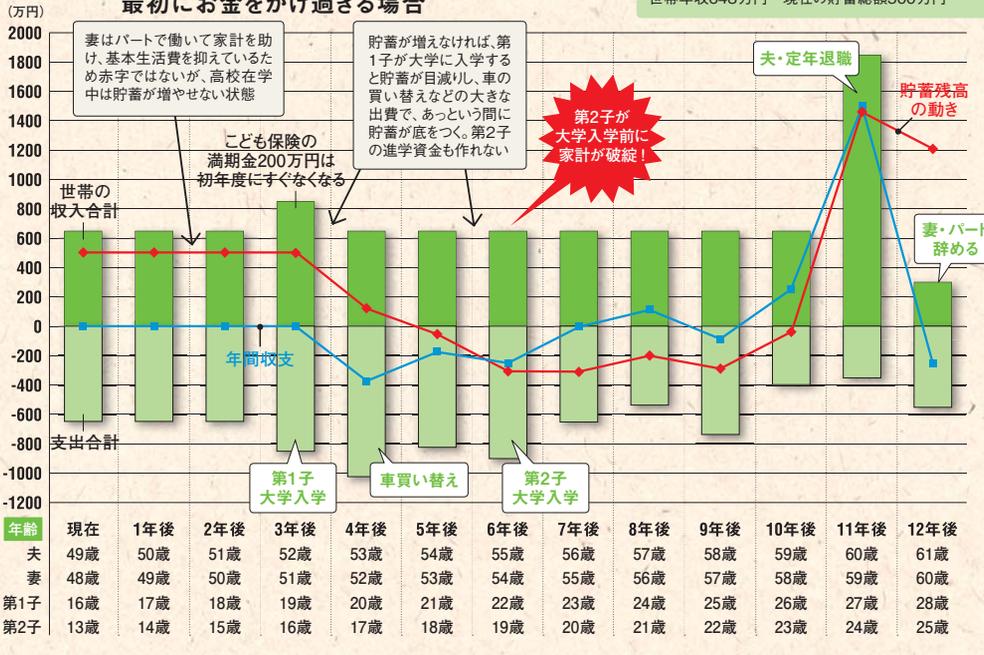
大学生や専門学校生になると、学費以外の生活費も高校生とは比べものにならないくらいかかってきます。

上のグラフでもわかるように、大学生の1年間の生活費は、自宅生で約50万円、下宿生では107万4500円にもなります。自宅生では定期代がかなりの割合を占め、そのほかは昼食代やゼミ・サークルの活動費が中心です。下宿生の場合は、家賃や光熱費、食費が大きなウェイトを占めています。

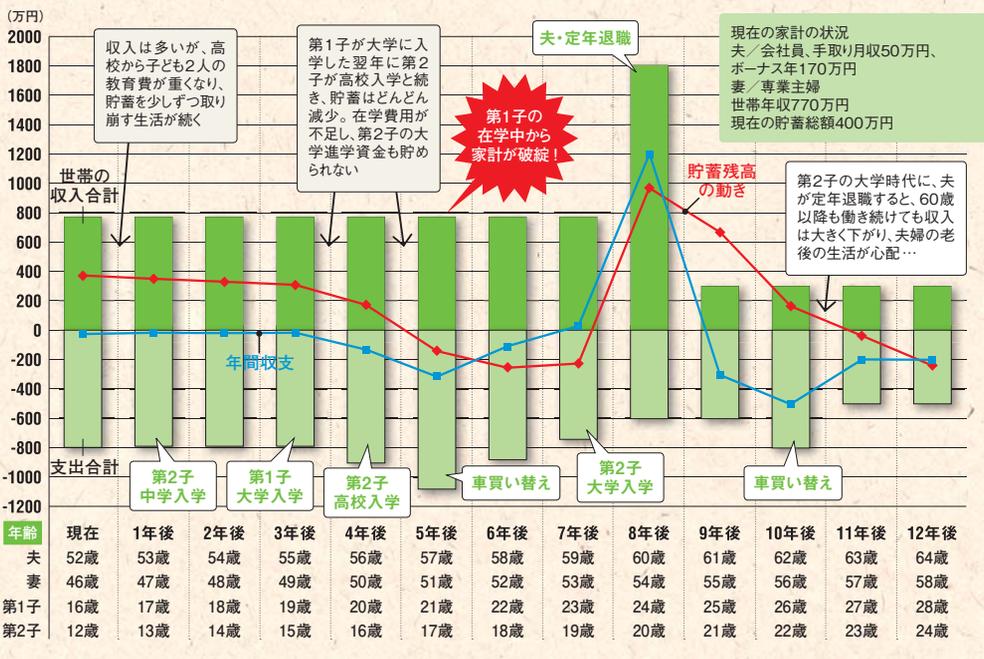
「これらの費用を全部親が出す必要はありません。自宅生でも、『定期代は出してあげるけど、後はアルバイトなどを自分で出さなさい』というように、各家庭でルールを決めるといいでしょう」(畠中さん)

教育資金は計画的に準備しないと後悔することも

■ ケース1 第1子が私大理系に進学し、仕送りをするなど、最初にお金をかけ過ぎる場合



■ ケース2 上の子に続き、下の子も私立高校に進学して、2人とも私大文系に進学させる場合



早めにも「マネープラン」を 立てるほうが重要

「今のままでも何とかなる…」って本当!?



教育費をかけすぎると
家計は先々赤字に転落!?

「高校まで公立であまりお金がかからなかった家庭でも、子どもが大学や専門学校に進むと、毎年、百万円単位のお金が出ていきます。家計はあっという間に赤字になり、慌てる親も少なくありません(畠中さん)」

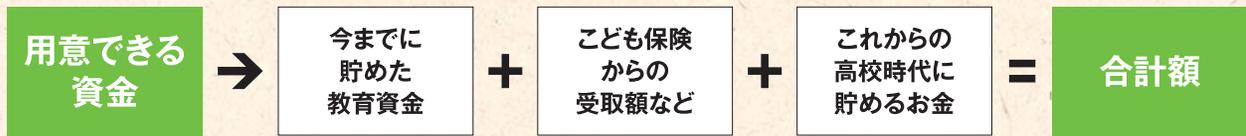
先のことを考えずに漫然と教育費を出していくと、家計はどうなってしまうのか、上に2つのケースを挙げてみたのでご覧ください。

ケース①は、第1子が私立大学理系に進学し、仕送りが必要になる家庭の例です。今の家計のままだと、第1子が大学に入學する3年後には支出が収入を上回り、大学在学中の5年後には貯蓄が底をつきます。第2子が大学に入學する時は教育ローンでまかすたとしても、実際には借入れが増え、家計は破たんしてしまいます。

ケース②は、2人の子ともが私立高校・私立大学に進学する予定の家庭。第1子の高校在学中から年間収支が赤字になり、貯蓄を取り崩す生活が始まり、大学在学中に家計は破たん。夫の退職金でひと息ついたとしても、第2子の大学費用などで、定年後の親の生活が危うくなります。

子どもの教育費が、このように家計を大きく左右することもあることを忘れないようにしてください。

進学資金はこう考えて準備しよう!



すでに準備できている分

あと2~3年で
どれだけ貯められるか
を考えよう

これからできる
貯蓄を増やす
ための工夫

■進学資金をまかなえるかをチェック

用意できる資金を各年に振り分け、
毎年の家計から出せるお金も加えて
必要な資金を準備できるかを検討!

>>方法1

車の維持費、生命保険料など、
負担の大きな固定支出を
思い切って見直す

>>方法2

高校時代の塾代、通信教育、
部活費など、子ども関連の費用は
できるだけ抑え、
その分を貯蓄にまわす

>>方法3

住宅ローンの残高が少なければ、
今のうちに繰り上げ完済し、
毎回のローン返済分を貯めていく

	必要な資金 (P.57~61参照)	用意できる資金
高校3年 (受験費用など)	万円	万円
大学1年	万円	万円
大学2年	万円	万円
大学3年	万円	万円
大学4年	万円	万円

教育資金が心配なら
今から計画的に準備しよう

教育費で家計が破たんし追いつかぬようにするには、必要な金額や準備できる資金を、実際に書き出して確認することをお勧めします。

上の表のように、まずはこれから先に進学する子どものために用意できる資金を出し、それを高校3年から大学までの各年に振り分けます。用意できる資金にはその年の家計から出せるお金も加えてかまいませんが、兄弟姉妹がいるなら、その子にかかる費用も考えて、ある程度は残しておかなくてはなりません。

資金が不足しそうなら、進学までにどれだけ増やせるかを考えましょう。「進学の貯蓄を増やすには、生活費を節約して大きな固定支出を見直す、子どもの塾代などを抑えるといった方法のほか、住宅ローンを繰り上げ返済する方法も。できることから取り掛かってください」(畠中さん)

月3万円とボーナス時に7万円貯めれば、年間の貯蓄額は50万円になり、2~3年あれば100万~150万円ほど資金を増やすことも可能。

「子どもが2人以上いる場合や、主人の定年が近い家庭ほど家計を見直し、周知な準備が必要」(畠中さん)

実際の相談事例を次のページに紹介したので、参考にしてください。

子どもは3人で、
長男は私大理系に進みました。
老後資金も考えて、
次男の進学資金はどう準備すべき？

島崎家(仮名)、埼玉県

家族構成 / 夫(52歳・公務員) 妻(50歳・専業主婦)
子どもは長男(私立理系大・1年)、次男(公立高校1年)、三男(公立中学1年)

次男は春に高校2年生。その学資保険は15歳満期で終了したため、大学費用が心配です。長男の奨学金を次男用に貯めています。3人分の教育費と老後資金については何を優先し、どう準備すればいいのかと悩んでいます。

【家計の現状】

■月間収支

収入	世帯の手取り額	56万～60万円
----	---------	----------

支出	住宅ローン	7万円
	水道光熱・通信費	5万円
	基本生活費	23万5000円
	教育費	15万円
	生命保険料など	5万2000円
	貯蓄	3万円

■ボーナス収支

収入	年間手取り額	180万円
----	--------	-------

支出	住宅ローン	80万円
	固定資産税・車関連費	25万円
	教育費	7万円
	その他支出	58万円
	貯蓄	10万円

現在の貯蓄残高	約1000万円
---------	---------

見直しPOINT.1

1本を完済すれば、年80万円以上貯蓄を増やせる

銀行と職場からの借り入れて2本あり

長男の学費などを月換算した分

見直しPOINT.2

いったんプールして、学費の出し方を再検討

次男、三男の学校関係費など

臨時支出などもここでまかなっている

債券や外貨など換金しづらい資産が多い



住宅ローンのうち、
残り少ない1本を繰り上げ完済。
その返済分を貯蓄して
次男の大学資金に。
長男の学費の出し方も検討を

大学生を頭に高校生・中学生と3人の子どもがいると、この先も教育費の負担が長く続きます。こういうご家庭は子ども1人ずつ、用意する費用を分けて考えておきたいもの。島崎家は家計面では恵まれています。手持ちの貯蓄は換金しづらい金融商品が多く、収入の割には年間の貯蓄額が少なめです。住宅ローンのうちの1本は残債が320万円なので、これを貯蓄から完済すれば、月々ボーナス時の返済分で年に84万円を貯蓄に回せます。また、現在貯めている長男の奨学金をきちんと長男の学費に回せば、2年で300万円近く貯められ、次男の大学資金が準備できます。不足する分だけ奨学金を利用しては。三男は大学在学中にご主人が定年になるため、まだ間に合う学資保険に加入し、準備するのも方法です。

医学部希望の長女。
中学受験を控える次女もいるため
教育ローンで
なんとかなりますか？

田口家(仮名)、東京都

家族構成 / 夫(48歳・会社員) 妻(46歳・介護ヘルパー)
子どもは長女(公立高校・1年)、次女(小学校6年)

今春、高校2年になる長女は中学時代から医学部志望で、最近臨床心理士にも興味を持っています。ただ、主人の給与が減少し、貯蓄ができません。私は正社員で働くことも考えていますが、教育ローンは借りられるか心配。

【家計の現状】

■月間収支

収入	世帯の手取り額	36万～40万円
----	---------	----------

支出	住宅ローン	7万円
	水道光熱・通信費	6万円
	基本生活費	13万～16万円
	教育費	10万円
	生命保険料など	1万7000円
	貯蓄	0円

■ボーナス収支

収入	年間手取り額	140万円
----	--------	-------

支出	固定資産税・車関連費	30万円
	夫婦の生命保険など	42万円
	こども保険(2人分)	36万円
	赤字補てんなど	32万円

現在の貯蓄残高	0万円
---------	-----

妻の仕事量で収入は変動する

繰り上げ返済をして残り6年に

長女の通信教育、次女の塾代など

見直しPOINT.1
夫婦の生命保険の見直しで年に最大14万円ほど節約可能

個人年金保険も含む
長女、次女とも18歳満期で250万円

見直しPOINT.2
赤字分を見直し、浮いた保険料と合わせて2年で50万円を貯蓄

住宅取得時に使い切り、以降はほとんど貯められない



国公立なら可能ですが、
教育ローンにも借入額に限度が。
次女の進学や夫婦の老後も
考えて、進路については
子どもともしっかり話し合しましょう

医学部を目指すなら高校1年から専門の予備校に通うことが必要で、その費用も高額です。国公立なら学部に関係なく学費は同じですが、私立大学の医学部だと6年間で3000万～4000万円かかるのが一般的。教育ローンを借りるとしても500万円程度が限度。現状の家計では、個人年金保険や養老保険は夫婦の老後のために残り、ご主人の更新型の生命保険と奥さまの保険の特約を割安な保険に見直せば、年に最大14万円ほど捻出可能。車関連費や生活費も見直して大学入学までに50万円ほど貯めれば、学資保険と合わせて300万円は長女の学費に回せます。こうした現実をお子さんにも伝え、進路についてはもう少しじっくり話し合ってみては。次女の進学先によっては、奥さまの収入を増やすことも検討を。

※相談はいずれも2011年1月に実施した際の状況に基づくもの。

2つの家庭を専門家が診断！
進学資金は「家計の見直し」で
少しでも多く捻出したい

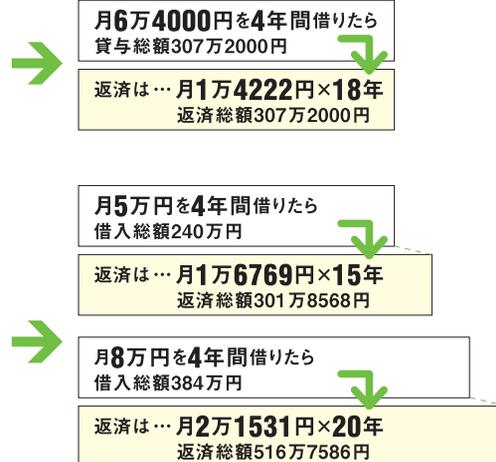


日本学生支援機構の奨学金(予約採用・4年制大学の場合)

第一種奨学金(無利息)	学力基準	高校の成績の平均値が3.5以上
	家計基準(私立・4人家族の目安)	給与所得者は収入882万円以下、それ以外は所得396万円以下
第二種奨学金(利息付)	学力基準	高校の成績が平均水準以上や、特定の分野で特に優れた資質能力があると認められるなど
	家計基準(私立・4人家族の目安)	給与所得者は収入1134万円以下、それ以外は所得648万円以下
	貸与月額(大学・学部の場合)	3万円、5万円、8万円、10万円、12万円から選択。私大医学・歯学・薬学・獣医学課程は増額が可能

条件に合えば第一種を希望し、ダメなら第二種を申し込む人が多い。場合によっては第一種と第二種の併用も可能。

返還例



第二種の返還例は利率が上限の年3%の場合。実際の利率は貸与終了時に決まる。例えば、平成19年4月以降の採用者で、平成23年1月に貸与終了した人の返済時の利率は1.37%(利率固定方式・年利)。短大・専門学校の場合は貸与期間・総額は修業年数に準じ、それに応じた返還月額になる。在学採用(緊急・応急利用を含む)の場合、家計基準・貸与月額・返還期間が異なる。

進学資金のお助け制度

いざというときに頼りになる!

大学独自の奨学金の例

大学名	経済的支援を目的とした奨学金の一例	学業優秀者を対象にした奨学金の一例
法政大学	新・法政大学100周年記念奨学金 学業成績が優れ、教育上経済的援助が必要な学生が対象。全学年で採用予定者は438人。文系20万円、理工系25万円を給付	「開かれた法政21」奨学金・奨励金 「入学時特別奨学金」は当該年度の授業料相当額を給付。入学試験時の成績により457人が対象。2~4年生対象の「成績優秀者奨学金」(全学で260人、当該年度の授業料半額相当額を給付)などもある
専修大学	家計急変奨学生 主たる家計支持者の死亡、失業、長期療養などの経済的理由により、修学の継続が著しく困難な学生が対象。授業料の40%相当額を一括支給	新入学生奨励学生 1年生で、入学後、各学部で実施する奨学生試験の成績が特に優れ、人物優秀な学生に給付。1部学生は30万円、2部学生は15万円を給付。2~4年生対象の「学術奨励学生」もある
福祉大学	国際医療福祉大学学生支援基金奨学金 学費負担者の不慮の事故などに伴う家計急変者に貸与。貸与額は年間学生納付金の範囲内	特待生制度 入学試験の成績上位合格者を選抜し、授業料を30~100%減免。100%減免の場合、学納金総額は、薬学部(6年)で300万円(660万円減免)、その他の学部230万円(360万円減免)
関西大学	関西大学入学時貸与奨学金 修学の熱意はあるが、経済的理由により著しく修学が困難な学生が対象。入学初学期学費相当額を無利子で貸与、入学時1回限り。文系学部40万5000円、理系学部65万7000円。2010年度は519人採用	関西大学第1種給付奨学金 一般入試及びセンター利用入試の成績優秀者が対象。授業料全額相当額を給付(返還なし・合格通知とともに通知。2010年度は約170人)。期間は4年間だが、毎年度学業成績により継続審査あり

教育ローン

名称	おもな借入条件	融資額	金利(年)/返済期間	問い合わせ
国の教育ローン 教育一般貸付	子どもの人数と世帯所得によって制限があり、給与所得者は子ども2人で年収890万円以内、事業所得者は所得680万円以内	学生、生徒1人につき300万円以内(2009年8月より拡大)	固定2.75% 15年以内 在学中の元金据え置き可	日本政策金融公庫 教育ローン コールセンター TEL 0570-008656
財形教育融資	勤務先で財形貯蓄を行っている人(一般財形、年金財形、住宅財形いずれも可)	財形貯蓄残高の5倍以内で、10万円以上、450万円まで	固定2.05% 10年以上。最長4年の元金据え置き可	勤務先または雇用・能力開発機構 勤労者財産形成部 TEL 045-683-1166
ろうきんの教育ローン(中央ろうきんの場合)	会社が団体会員になっている、または自宅や会社が関東8都県にある人。申込時20歳以上、最終返済時満71歳未満など	団体会員 1000万円以内、上記以外は 500万円以内	返済期間が10年以上の場合、団体会員は固定1.7%、それ以外は2.2%。返済期間は最長15年	中央労働金庫 お客様相談デスク TEL 0120-86-6956
銀行の教育ローン	銀行によって多少異なるが、申込時20歳以上で、前年度の税込み収入が200万~300万円以上、勤続年数1年以上など	最高300万~500万円が一般的	変動金利が主流。ネットで申込める銀行もある(三菱UFJ銀行の場合、変動3.475%。返済期間10年。当初元金据え置き可)	各銀行
大学提携の信販会社の教育ローン	学校と金融機関、学生の保護者の3者が契約。入学・在学中の学生の保護者であれば、年収審査などはない。	学校納付金と同額までが一般的	信販会社や学校によって異なるが、おもに固定金利	取り扱いのある各信販会社または大学の教育ローン相談窓口
ネット型教育ローン(損保ジャパン・クレジット「教育ローン」の場合)	満20歳以上、完済時60歳以下で保証会社の保証が得られる。勤続年数が原則3年以上の正社員(自営業は不可)など	E300(年収700万円以上)=300万~500万円、E50(年収400万円以上)=50万~299万円	E300=3.6%、6カ月~7年 E50=3.9%、6カ月~5年 (金利は保証料込み)	損保ジャパン・クレジット カスタマーセンター TEL 0120-334-966

*金利は2011年2月15日現在

国の奨学金のほか 大学独自の奨学金もチェック

「どうしても進学資金が足りない」というときに、頼りになるのは奨学金や教育ローンです。利用者が多いのは日本学生支援機構の奨学金で、利息なしの第一種と利息付きの第二種があります。第一種は成績や収入基準が厳しく、第二種は比較的ゆるやかで、利息の利率は低めに抑えられているのが特徴です。申し込みは進学先の学校で入学後にすることもできますが、入学後早めに受け取りたいなら、高校3年時に学校を通して予約採用で申し込むといいでしょう。

ただし、こうした貸与型の奨学金は子ども自身が返済するのが基本。「4年間借りると卒業時には数百万円の借金になり、長期間返済しなければならぬため、借りる額は必要最小限に抑えましょう(島中さん)」。教育ローンは親が借りるもので、国の教育一般貸付や財形教育融資のほか、銀行でも取り扱っています。今年度は大学と提携した信販会社の教育ローンも増えています。

また、各大学にも独自の奨学金制度があり、最近増えているのが返済の必要がない給付型の奨学金です。上表の通り、学校ごとにさまざまなタイプの奨学金があるので、ぜひ事前に調べて積極的に活用しましょう。